【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和３年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	佐賀市立南川副小学校

1　前年度 評価結果の概要	・学校教育目標「自分を磨く」は、課題解決に向けて主体的に考え、行動する力を育むことをねらっている。職員間で共通理解しながら取り組んだが、継続と徹底が必要である。 ・県調査の結果は、どの教科でも県の水準を下回り、系統立てて活用力や表現力を高めていくことが課題である。 ・職員の特別支援教育に対する取組の評価が低かったので、研修会等を実施し、専門性の向上を図る。
2　学校教育目標	自分を磨く子どもの育成 ～　自ら学び　心豊かに　たくましく生きる南っ子　～
3　本年度の重点目標	・確かな学力を磨く　（①主体的・対話的で深い学びへ　②指導力の向上　③時代が求める課題への対応） ・豊かで多様な感性を磨く　（①豊かな心と多面的考え方の育成　②特別支援教育の充実　③生徒指導・児童理解） ・健やかでたくましい心身を磨く（①健やかな体とたくましい心づくり　②安全・防災教育　③特別活動）

4　重点取組内容・成果指標　　5　最終評価

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上	・マイプランを共有し、取組を促進する。 ・「南川副小型授業」を共通理解し、全職員で実践する。	B	・研修会において各自のマイプランを見直し、取組を継続させたが、職員アンケートでは71%と成果指標を達成することができなかった。 ・「南川副小型授業」について、校内研究を通して共通理解し、実践につなげることができた。	B	・マイプランについての71%評価について、課題はどこにあるのかを明確にすべき。 ・「南川副小型授業」等工夫を凝らして取り組まれている。
	○活用力の向上	○1年～3年は、CRTの結果を全国標準値に、4年～6年は、佐賀県調査の結果を県の水準に引き上げる。	・スキルタイムの徹底を図る。 ・「家庭学習がんばり週間」で、保護者へ啓発し、家庭学習及び読書習慣（必読書）の定着を図る。	B	・国語については、県調査の結果が県平均程度から、それを超える結果だったが、算数は6年生以外の学年で県平均を下回っている。 ・読書の貸し出し冊数が昨年度より約32%の増加となり、読書習慣は定着してきた。	A	・読書離れが進んでいる現在、読書週間の定着は素晴らしい。この結果が、国語の成績につながったのではないか。 ・結果が出るよう、実践をさらに継続させる必要がある。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●道徳に関するアンケート（思いやり、挑戦心、社会性に関すること等）達成率85%以上	・道徳科の授業づくりやQ-Uの校内研修を実施する。 ・毎週木曜日を道徳教育の日として、人権教育、道徳の充実を図る。 ・ふれあい道徳での授業実践を家庭に発信し、連携を図る。	A	・道徳アンケートの結果、思いやり86%、挑戦88%、社会性に関すること95%達成した。 ・単元計画に沿って授業をしたり、評価についての研修会を開いたりできた。さらに児童の実態にあった授業を行っていく。 ・ふれあい道徳では、授業の目的や内容について学級だよりなどを通じて公開することができた。	A	・アンケートの結果を見ても、一人ひとりを大切に見守り、指導されている賜物である。児童の良いところをほめて、どんどん伸ばしてほしい。 ・心の教育については目に見えにくいものである。QUテストやアンケートなどを駆使し、一人ひとりの児童に寄り添い、温かい信頼関係づくりをしてほしい。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	●いじめ問題には、必ず、管理職を交えた組織で対応し、今年度発生したいじめ問題は、未解消件数を0（ゼロ）にする。	・毎月の「いじめ・いのちを考える日」に「にこにこアンケート」を実施し、6月、11月に教育相談週間を設ける。 ・いじめ問題への対応に関する研修会を開き、全職員の意識を高める。	A	・毎月行う「にこにこアンケート」といじめアンケートの回答が異なっているときがあり、「にこにこアンケート」の項目について見直す必要を感じた。 ・いじめに対してチームで対応できるように今後も研修の機会を設けていく。	A	・教師と児童が1対1で語り合える時間があればよい。話をしていく中で、問題の早期発見、早期対応につながる。 ・アンケートや教育相談週間など、有効かつ丁寧な指導をされていると感じる。
	◎志を高める教育の実践	◎学校評価の時期に児童アンケートを実施し、自分の夢に向かって努力を惜しまずに取り組もうとする児童を90%以上にする。	・キャリア教育に関する研修会を設け、全職員共通理解のもとで実践する。 ・道徳科や学級活動、総合的な学習の時間において、キャリアパスポートを活用する。	B	・アンケートにおいて、夢や目標に向かってがんばっていると肯定的に答えた児童が90%おり、今後もキャリアパスポートを活用しながら、特別活動や各教科でのキャリア教育を進めていく。 ・4年生の「未来プロジェクト」をモデルとして、中、高学年で系統性を持たせてキャリア教育を実践していく。	B	・教師がモデルとなり、話をすることで将来の職業選択に影響を与えることができるのではないか。 ・取組に対して、自己評価を見える化し、具体的な成果や達成状況を児童に示していくと、自信につながると思う。
●健康・体つくり	●「望ましい生活習慣の形成」	●「早寝・早起き・朝ごはん」「8時登校」ができる児童を、90%以上にする。	・「生活ふり返り週間」において、重点的取組の中に「早寝・早起き・朝ごはん」と「8時登校」を設定し、家庭と連携して取り組む。	B	・生活ふりかえり週間において、「朝ごはん」を毎日食べてきている児童が95%、「8時まで登校」も90%以上の児童が取り組めている。しかし、「睡眠時間」は目標の睡眠時間を守れている児童が、60%程度となっており、改善の必要がある。そのためにも、家庭との連携、望ましい生活習慣に関する啓発を行っていきたい。	B	・児童の家庭での状況を把握するために、家庭との綿密な連携を心がけてほしい。 ・挨拶もきちんとできていると地域の声も聴いている。 ・睡眠時間の改善については、具体的な手立てを打つことが肝心である。
	●「安全に関する資質・能力の育成」	●児童の交通事故及び救急搬送を要する生活事故等を0（ゼロ）にする。 ●避難訓練（水難、不審者対応、地震・火災）の振り返りで、「お・か・し・も」などの約束が達成できた児童を95%以上にする。	・定期的に避難訓練を行うことで、児童の安全に対する意識を高める。 ・防災に関する研修会を実施し、職員の意識を高める。	A	・交通事故及び、生活事故は0（ゼロ）だったが、登下校中のケガがあり、指導を行った。 ・避難訓練では、目的意識をもって数値目標をほぼ達成できた。しかし、避難中にしゃべらないの約束が不十分だった。	A	・専門的な知識を持った人を招いての講話や訓練を幅広く行ってはどうか。 ・登校時の安全指導やあいさつ指導の取組に地域の方々の協力が得られているところがよい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・会議や研修の目的を明確にし、内容の精選、時間設定等を行い、放課後の学級事務や「夕活」等に充てる時間を確保する。 ・定時退勤日、学期末特別校時を設ける。	B	・全教職員が、毎朝その日の目標帰宅時刻を設定する習慣が定着している。今後は、一週間を見通した業務への取り組み方を工夫し、週に一日の定時退勤日（金曜日）の徹底を図る。	B	・管理職や年長者の率先垂範が必要である。 ・自分の時間の確保や健康管理のための工夫を、全職員で出し合ってみてはどうか。
	○教職員の負担感の軽減	○学校評価及びストレスチェックなどのアンケートで、「協力し合える体制で業務を推進できた」について肯定的な意見を80%以上にする。	・3部会（生活、心つくり、体つくり）の中で協力体制を確立させる。 ・生活指導、教育相談に係る諸問題の解決に、チームで取り組み、負担感の軽減を図る。	A	・「積極的な協力体制ができている」「働きやすい職場の雰囲気がある」と肯定的に捉えている職員がどちらも90%を超えている。生活指導の面でも校務分掌の面でも、継続してチームで対応していく。	A	・職場環境が良好であるという90%を超えた結果は素晴らしい。相談できる上司や仲間がいる環境で、ストレスも軽減できているのでは。 ・勤務時間内で仕事を終える習慣を身につけ、明日への糧としてほしい。

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言
○特別支援教育	○特別支援教育の更なる推進	○学校評価（保護者アンケート）で、特別支援教育の取組に対する保護者の理解度を85%以上にする。 ○外部講師を招聘し、支援を要する児童への理解、指導及び支援の在り方並びに環境づくり等について研修会を1回以上行う。	・入学式や学級懇談、学校便り等で啓発を図る。 ・「校内支援会議」で、全職員の共通理解を図り、指導・支援を行う。 ・保護者や関係機関と連携しながら就学支援へとつなげていく。 ・学年懇談会で支援学級担任が、保護者への情報提供や情報交換を行う。	A	・保護者アンケートでは、理解度が90%以上だったが、2学期以降コロナ感染症の影響で、具体的な啓発活動ができなかった。今後は通信や保護者に向けた研修会のお知らせなどを行い、特別支援教育の理解につなげていく。 ・困り感をもった児童を次につなげる支援ができたが、学校全体の特別支援教育についてさらに研修を積み、指導力をあげていく。 ・スクールカウンセラーや医師を講師に研修会を実施し、支援の在り方を学んだ。	B	・まずは、研修会を通して教員が理解することが必要。 ・偏見や理解不足は、一朝一夕にはぬぐえないと思うが、学校行事等の中で、保護者に対する説明や啓発を続けていくことで、徐々に浸透していくのではないか。 ・具体的な取組や数値データが見えるようにしてほしい。
○教職員の資質向上	○教職員の資質向上	○服務規律違反を0（ゼロ）にする。 ○学校評価（最終評価）の時期に、授業力向上に関するアンケートを実施し、達成率を90%以上にする。	・服務規律、教職員としてのマナー等について、講師を招聘し、研修会を行う。 ・校内研究の充実を図る。	B	・2学期末に職員の交通事故があり、「ゼロの日」を中心に、より一層服務規律の保持や安全運転への意識を高めている。 ・指導方法の改善に努めている職員が93%であるが、その中でも「だいたい」と答えたのが半数以上なので、一人一人が自身の成長を感じるような校内研究にしていく必要がある。	B	・自己の指導法を高めるために、相互に授業を参観し合ってはどうか。 ・職員一人一人の具体的な取組、成果を見える化すべき。 ・児童に接する態度に温かみを感じる。

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	①学力向上 佐賀県調査において県の水準に並び越えることを目標とし、校内研究での授業改善、朝の特設タイムの取組、放課後チャレンジスクールでの基礎学力の定着を徹底・継続することで、学力の向上を図る。 ②特別支援教育の充実 次年度は、特別支援学級在籍の児童が増えることから、児童一人一人の課題の改善と将来的な自立に向けて、自立活動の計画や個別の指導計画の作成等を行う。困り感を持った児童を早期に発見し、手立てを講じるためにも、特別支援教育についての保護者や地域の理解は必要不可欠である。校内での取組や情報を計画的に発信して啓発を行う。